

## 第60回 全国公立学校教頭会研究大会 札幌大会参加報告

平成30年度『第60回 全国公立学校教頭会研究大会札幌大会』が8月1日(水)～3日(金)の3日間、札幌市「札幌コンベンションセンター」を主会場に『豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育』を大会主題として開催された。

1日目は開会行事に引き続きシンポジウムが行われ「豊かな心とたくましく生きる力を育む活力ある学校づくりの推進」について提言をいただいた。2日目は10分科会が3会場に分かれ行われ、3日目は白井一幸氏による「組織の活性化を実現するナンバー2の役割」と題した記念講演のあと閉会行事を行い大会を終えた。

2日目に参加した第5分科会では、「教職員の専門性に関する課題」について、特に教職員の資質・能力の向上を目指した教頭の果たすべき役割や関与の在り方を中心に議論を深めた。

市川市教頭会からの提言では『教職員の指導力の向上を目指す取組』～中学校ブロックという異校種間の連携を通して～と題して。

ベテラン教員の大量退職、ミドルリーダーの不在、不登校児童生徒・発達障害児童生徒への対応などが課題となっている中、小・中学校の連携を通して教職員の指導力の向上、支援が必要な児童生徒にとっての環境作りを教頭として図っていく提言であった。教頭を中心に、小中連携の組織づくりをどう進めていくか、学校間の連携の推進をどのように担うかをテーマにした取組が提案された。今後、教職員の資質向上につながっているのか検証しながら継続した研究が大切であると確認された。

稚内市教頭会からは『教職員の資質・能力の向上を目指した教頭の役割』～チームとしての協働体制の構築と学校運営参画に向けた取組を通して～と題して。

稚内管内の小中学校は、その大多数が小規模、極小規模であり、教職員の年代別人数でも、大量退職、大量採用により若年層が増加し、中堅層が薄い傾向にある。その課題に対して、学校規模に応じたチームとしての協働体制の確立と、教職員の学校運営参画の育成を図る提言であった。実践例では、授業等改善事業に基づく授業づくりに対して計画的な授業参観、指導、助言など教頭の指導性のあり方や学校のチーム力を高める取組として、学校運営組織の機能の向上を図るための教頭の指導性のあり方などの発表があった。

グループ協議では中1ギャップについても話題となり、問題の背景として、学校種ごとの制度の違い、教科担任制への移行、仲間集団の変化による戸惑いがあるが、それぞれの地域でどのような取組をしているか情報交換を行った。また、地域によって教頭が担う役割、地域住民との関わり方や行政との関わりなど、山梨との違いを痛感した。反面、職員の年齢構成の偏り、ベテランの大量退職とミドルリーダーの不足、初任者、再任用教職員の増加への対応は共通課題であった。教頭として、初任者、再任用者や臨時採用者等、それぞれに応じた関与や指導の必要性が増してきていることは、全国どの学校でも同じであった。人材育成や教職員の専門性の向上を図るために、教頭としての力量や指導力を高め、学校運営の活性化に向けて、この研修を通して経験したことを活かしていきたいと感じた。このようなよい機会をいただき感謝したい。

(岩手小学校 鈴木敏弘)